

あいち農産物生産流通レポート

令和2年1月号

	ページ
◎ 情報サロン ・ 令和元年度あいち食育いきいきシンポジウムを開催しました (食育消費流通課)	1
◎ 東日本情報 ・ トマトの新機能性成分「エスクレオサイドA」による需要喚起 (東京事務所)	2
◎ 西日本情報 ・ 「愛知123号」ブランド化推進協議会の取組について (園芸農産課) ・ 平成30年の県内卸売市場における青果物・花きの流通動向 (食育消費流通課)	4 5
◎ フラワーページ ・ 花き生産者団体による生産振興の取組について (愛知県花き温室園芸組合連合会)	6
◎ 青果 ・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場) ・ 名古屋・東京市場における青果物の1月の見通し	7 8
◎ 花き ・ 切花・鉢花の1月の見通し(県内市場)	20

※今月、「地域トピックス」はありません。

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

平成29年4月号から、「全国における主要農産物の輸出入実績」、「関連指数」のページはなくなりました。それぞれの情報につきましては、

【輸出入実績】

農林水産省ホームページ内「農林水産物輸出入統計」
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kokusai/index.html>

【消費者物価指数】

全 国：総務省統計局ホームページ内「消費者物価指数月報」
<http://www.stat.go.jp/data/cpi/>
名古屋：愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」
<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/toukei/bukka.html>

【農作物価指数】

農林水産省大臣官房統計部「農作物価統計調査」
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noubukka/>

【名古屋市小売価格】

総務省統計局「小売物価統計調査」
http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?_toGL08020101_

を御覧ください。

令和元年度あいち食育いきいきシンポジウム
「新しい時代に もう一度、和食の良さを見直そう！」
を開催しました

食育消費流通課

2013年12月の「和食；日本人の伝統的な食文化」のユネスコ無形文化遺産登録を契機に、伝統的な食文化の保護・継承の重要性が高まっており、愛知県でも、第3次愛知県食育推進計画である「あいち食育いきいきプラン2020」において、「日本型食生活の推進、郷土料理等地域の食文化の継承」に取り組むこととしています。

そこで、「和食」や「郷土料理」、それを支えるあいちの農産物の良さを感じ、次世代への継承を考えるきっかけとするため、11月25日（月）に名古屋市内でシンポジウムを開催しました。

当日は食育や郷土料理に関心の高い県民、教育関係者、食生活改善推進員、各種団体、行政職員等104名の方に参加いただきました。



シンポジウム会場の様子

1 基調講演「和食の魅力と継承」

奈良女子大学の的場輝佳名誉教授から、ユーモアを織り交ぜながら、和食に含まれる栄養や生活習慣病との関係、「だし」の特徴、京都府での和食伝承の取組などについて、基調講演をいただきました。

和食と生活習慣病の関係の話では、「うま味に触れる機会が少ないと、甘味嗜好になり、肥満になりやすい。」という話があり、参加者には強く印象に残ったようでした。



的場名誉教授による基調講演

2 講演「愛知県の食文化と郷土料理」

名古屋文化短期大学の鳥居久雄教授から、愛知県の食文化や郷土料理について、講演をいただきました。

講演の中では、同じ郷土料理でも地域によって作り方が異なるという話がありました。

特に雑煮の餅が丸餅か角餅か、かしわを入れるか、などの講師の呼びかけに対しては、参加者は挙手しながら周りを見渡し、各家庭での違いに驚く姿がみられました。

その後の質疑応答も活発に行われ、あっという間に閉会の時間となりました。

参加者からは「だしの重要性、日本食の尊さ・大切さを実感しました」、「あいちの郷土料理を作ってみたいです」など多くの声が寄せられたほか、終了後のアンケートでは9割以上の方から「参考になった」と回答がありました。

このシンポジウムの内容が、参加者を中心に家庭や地域において多くの県民に伝わり、和食や郷土料理の継承が一層進むことを期待します。

トマトの新機能性成分「エスクレオサイドA」による需要喚起

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

12月10日（火）に大田市場内において、JAグループトマト主産県による合同講演会が開催されました。この講演では、東海大学の永井竜児教授からトマトの新しい機能性成分の紹介が行われました。

1 合同講演会の概要

今回の講演会は、「トマト主産県会議」が主催しました。トマト主産県会議は、愛知・茨城・栃木・群馬・千葉・静岡・岐阜・福岡・佐賀・熊本・宮崎の11県のJAグループから構成されており、今回のような講演会のほかにも試食宣伝会の実施や販促資材の作成などに共同で取り組み、トマトの需要拡大に向けた活動をしています。

講演会には、こうした在京の各県JA担当者に加え、市場担当者やバイヤー、販売員など、流通や販売に携わる約200名が参加しました。

また、講師を務めた永井教授は現在、東海大学農学部において食品成分による病気の予防の研究を行っており、今回はトマトの新機能性成分「エスクレオサイドA」を題材として講演されました。

2 新機能性成分「エスクレオサイドA」とは？

永井教授らの研究によると、トマトの新機能性成分「エスクレオサイドA」は、人の腸内細菌の働きで「エスクレオゲニンA」となります。そしてこの成分が、血管に脂質が蓄積するのを抑制することで、動脈硬化の予防に効果を発揮するとのことでした。

なお、エスクレオサイドAは、重量当たりに換算すると大玉トマトよりミニトマトに多く含まれています。人によって腸内細菌の量が異なるため、生成されるエスクレオゲニンAの量にはばらつきがあるものの、ミニトマトを一人当たり一日2～3果食べれば動脈硬化の予防に十分な効果が得られるとのことでした。

数果であっても、ミニトマトを毎日食べ続けるのは大変ですが、永井教授が被験者にトマト摂取の継続試験を行った際の経験によると、おいしいトマトの方が継続して食べてもらいやすかったそうです。良食味の評価を受けている本県としては、この意見に大いに励まされました。

また、トマトを食べる際の注意として、このエスクレオサイドAは熱に弱く、現在確認できている効率的な摂取方法は加熱調理ではなく生食となります。加えて、一度に大量のトマトを食べるのではなく、毎日少しずつでも食べ続けることの方が重要とのことでした。



合同講演会の様子

3 トマトの需給バランスの調整に向けて

東京都における消費者のトマト購入数量（推計値）と、東京都中央卸売市場への大玉トマト及びミニトマトの合計入荷量との比をグラフ化しました（図1）。

トマト購入数量を全国平均値から算出したことや、東京都中央卸売市場に入荷されるトマト類が全て都内で消費されるわけではないため推計となりますが、この値が大きい時期は、需要に対して供給量が多いことを示しています。

この図を見ると、トマト類の合計入荷量/購入数量の比は、春から夏にかけての時期に比べ、秋冬期の方が大きい傾向にあることが分かります。一般的に、気温の低い時期は需要が低下すると言われており、トマトでも荷余り傾向が見られますが、今回の講演にあった「エスクレオサイドA」の効用が消費者に認知されることなどにより、年間を通したトマト需要が高まれば、秋冬期のトマト販売における課題解決の一助になることが期待されます。

トマト主産県会議では、今回のエスクレオサイドAの効果についても、永井教授と相談しながら表示に用いられないか検討していきたいとの声も聞かれました。

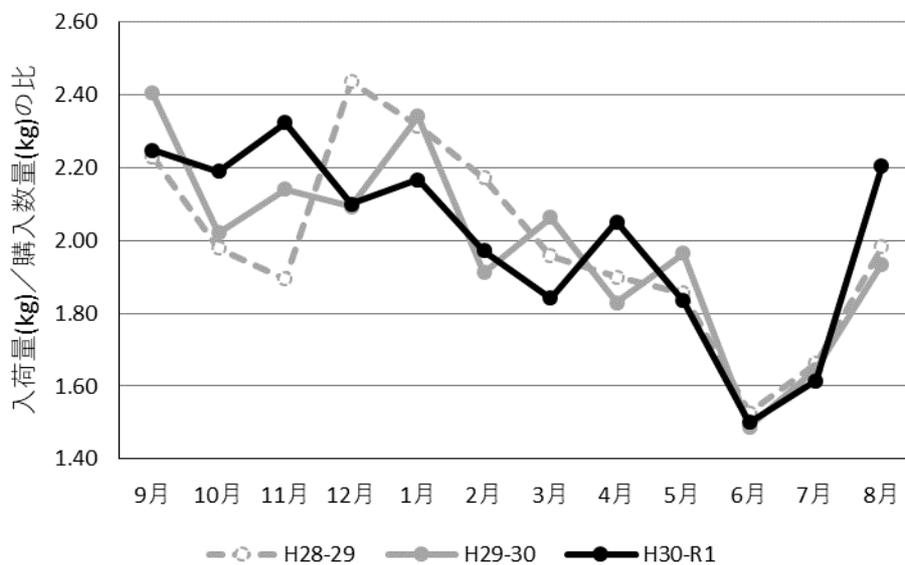


図1 トマトの購入数量に対する入荷量の比*

※出典及び算出方法は以下のとおり

- ①：総務省「家計調査」から、各年の全国二人以上の世帯におけるトマトの購入数量(g)を引用
- ②：厚生労働省「国民生活基礎調査」における、平成30年の全国の総世帯数[50,991千世帯]、平均世帯人員[2.44人/世帯]、単独世帯数[14,125千世帯]から、二人以上の世帯の平均世帯人員を2.99人/世帯と推計
- ③：①÷②により、一人当たりトマト購入数量(g)を算出
- ④：東京都ウェブページ「東京都の統計」の、各年9月1日の東京都人口の推計値を③に乘じ、東京都全体でのトマトの購入数量(kg)を推計
- ⑤：東京都中央卸売市場市場統計情報における、各年のトマトおよびミニトマトの入荷量(kg)を引用
- ⑥：⑤÷④により、入荷量/購入数量の比を算出

動脈硬化は心筋梗塞や脳梗塞等にもつながる生活習慣病です。永井教授は、そうした病気を治療することは医学の領分だが、未然に予防することは農業や食品の領分だと話していました。今回の講演を聞いて、農産物の生産・流通に係わる者はこうした視点を持つことも大事だと感じました。

「愛知 123 号」ブランド化推進協議会の取組について

園芸農産課

近年、愛知県では夏季の高温によるコシヒカリの外観品質の低下が問題となっています。このため、本県では、コシヒカリの高温障害による品質低下を改善した良食味品種「愛知 123 号」を開発しました。同品種はコシヒカリと同等の食味を持つ上に、猛暑の年でも外観品質の良い米を安定して生産することが期待できます。

県産米は過去に日本穀物検定協会（以下、穀検）が実施する食味ランキングで最上級の「特A」を獲得したことがないことから、この水稻新品種を活用し、県産米のブランド化を推進するため、「愛知 123 号」ブランド化推進協議会（以下、協議会）を 2017 年 4 月に設立しました。

1 協議会の概要について

（1）構成員

愛知県、地域協議会（生産者、JA、農業改良普及課）、JAあいち経済連、愛知県米麦振興協会

（2）作業部会

協議会では、以下の作業部会を設置し、安定生産技術の定着や「愛知 123 号」のブランド化に向けた検討を進めています（かっこ内は各部会での協議内容）。

ア 特A作業部会（良食味安定生産技術に関すること）

イ ブランド作業部会（ブランド化に関すること）

ウ 種子作業部会（種子の確保・流通及び備蓄等に関すること）

2 協議会の活動内容

（1）2017 年度の取組概要

ア ブランド米の一つの指標である食味ランキング「特A」取得を目指し、現地栽培試験を実施しました。

イ 「愛知 123 号」の販売については、品種名「なつきらり」ではなく新たにブランド名を設定することを協議会として決定しました。

（2）2018 年度の取組概要

ア 現地栽培試験の結果をもとに特A栽培マニュアル（暫定版）を策定しました。

イ 2020 年度の本格栽培及び販売に向け、マーケティングコンセプトを決定しました。

ウ ブランド名について、一般公募 1,906 件から候補を 3 つに絞り込み、商標登録出願しました。

（3）2019 年度の取組経過

ア 県内 28 の生産者による現地栽培試験の実施（約 9 ha 規模）

イ 富山県主要農作物種子協会に 2020 年産用種子（100ha 程度）の生産を委託

ウ 生産者登録要領を策定し、2020 年産の生産者募集を開始

（4）今後の予定

ブランド名の決定及びブランドマークの作成・決定、現地栽培試験の成績・食味検討、特A栽培マニュアルの策定、穀検による収穫サンプルの評価等を実施していきます。

平成 30 年の県内卸売市場における青果物・花きの流通動向

食育消費流通課

1 名古屋市中心卸売市場及び県内地方卸売市場の青果物について

(1) 平成 30 年の野菜及び果実取扱数量

野菜については、名古屋市中心卸売市場の取扱数量は 39 万 3 千 t（平成 25 年比 98.7%）で、5 年前より 5 千 t 減少しました（表 1）。このうち、県内産野菜は 6 万 5 千 t でした。一方、県内地方卸売市場の取扱数量は 11 万 2 千 t（同 76.7%）で、5 年前より 3 万 4 千 t 減少しました。このうち、県内産野菜は 4 万 5 千 t でした。

果実については、名古屋市中心卸売市場の取扱数量は 9 万 8 千 t（同 81.0%）で、5 年前より 2 万 3 千 t 減少しました。このうち、県内産果実は 1 万 1 千 t でした。一方、県内地方卸売市場の取扱数量は 4 万 2 千 t（同 72.4%）で、5 年前より 1 万 6 千 t 減少しました。このうち、県内産果実は 1 万 6 千 t でした。

(2) 青果物の取扱数量における動向

県内地方卸売市場では、名古屋市中心卸売市場と比べ、野菜、果実ともに取扱数量の減少率が大きくなっています。その主な要因として、系統出荷や農産物直売所での販売等が増加し、地方卸売市場への出荷量が減少していることが挙げられます。

また、主要品目では、減少傾向にある品目が多い一方で、野菜のミニトマト、セロリ、果実のみかんやキウイフルーツの取扱数量は比較的安定しています。

表 1 県内卸売市場における青果物の取扱数量

[単位:万t]

		平成30年			平成25年		
		全体	県内産	県産シェア	全体	県内産	県産シェア
名古屋市中心	野菜	39.3	6.5	16.6%	39.8	7.9	20.0%
	果実	9.8	1.1	10.9%	12.1	1.4	11.6%
県内地方	野菜	11.2	4.5	40.0%	14.6	5.9	40.7%
	果実	4.2	1.6	38.7%	5.8	1.9	33.5%

(注)表は小数点以下第2位を四捨五入しています。

2 県内地方卸売市場の花きについて

(1) 平成 30 年の切花及び鉢物取扱数量

切花の取扱数量は 2 億 4 百万本（同 81.6%）で、5 年前より 4 千 6 百万本減少しました（表 2）。このうち、県内産切花は 8 千 1 百万本でした。

鉢物（花壇用苗物等含む）の取扱数量は 6 千 1 百万鉢（同 82.4%）で、5 年前より 1 千 3 百万鉢減少しました。このうち、県内産鉢物は 2 千 3 百万鉢でした。

(2) 花きの取扱数量における動向

切花、鉢花ともに、市場全体及び県内産の取扱数量は減少傾向にあります。また、県内産では、切花は各品目において減少傾向にある一方で、鉢花は観葉植物が増加傾向（同 119.0%）にあり相対的な市場占有率を伸ばしています。

表 2 県内地方卸売市場における花きの取扱数量

[単位:千万本、千万鉢]

		平成30年			平成25年		
		全体	県内産	県産シェア	全体	県内産	県産シェア
県内地方	切り花	20.4	8.1	39.9%	25.0	11.0	44.0%
	鉢物	6.1	2.3	37.9%	7.4	3.0	41.4%

(注)表は小数点以下第2位を四捨五入しています。

花き生産者団体による生産振興の取組について

愛知県花き温室園芸組合連合会

愛知県花き温室園芸組合連合会は、県内の花き生産者で組織された団体で、県内花き生産の振興に寄与することを目的に、花きや温室園芸の生産改良及び消費拡大などに関する事業を行っています。今回は、本連合会に所属するきく部会とばら部会が今年度実施した取組を紹介します。

1 きく部会の取組について

本県のきくの産出額は、県の花き生産額の40%（平成29年）を占め、本県の重要な品目となっています。きく部会は、花の高品質安定生産を図るため、品種の検討会や消費拡大に向けたPR等の活動を行っています。

きく部会では、年に1回、現地研究会を開催しており、県内各地のほ場視察や講習会等を行い、技術向上を図っています。

今年度は11月13日（水）に田原市で開催し、賛助会員である園芸資材や種苗メーカーによる商品のプレゼンテーションやブース出展などを行いました。生産者はこれらの展示商品等を理解することで、きく栽培の技術向上につなげ、メーカー等は新たな取引につなげることで、お互いの発展を目指す活動になっています。



賛助会員のプレゼンテーション
を見るきく生産者



出展ブースを回るきく生産者

2 ばら部会の取組について

ばら部会では、父の日にちなんだ知事へのばらの贈呈など消費拡大を目的にした事業のほか、生産技術向上を目的とした研究会活動を年1回実施しています。

今年度は、8月16日（金）にウインクあいち（名古屋市中村区）において研究会を開催し、新たな試みとして花屋の団体である名古屋生花小売商業協同組合（以下、名花協）の組合員からも参加を募りました。研究会テーマは「バラの日持ち性と品質評価」で、講演の第1部では、名花協の講師から「夏期のバラの活用について」として、夏のばらを使用した商品提案がされました。第2部では、岐阜大学応用生物科学部園芸学研究室の山田教授から光合成の仕組みや開花メカニズムなどの研究成果が紹介されました。情報交換会では生産者と小売店が入り混じって意見交換が行われ、両者の視点からお互いの理解を深めることのできる有意義な研究会となりました。



名花協講師による
夏期のばら活用に関する講演



山田教授による
ばらの日持ち性に関する講演

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1 % 台以下
 わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：こまつな）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産	愛知産	
元年実績	3, 1 0 3	4 4 2 (1 4 %)	3 3 3	茨城 (4 7 %) 岐阜 (2 3 %) 静岡 (1 0 %)
2年見通し	3, 1 0 0	—	3 4 0	—
概要と見通し		卸売市場から産地への要望・提言等		
12月前半までは秋の長雨の影響で入荷量が少なかったが、後半は暖冬傾向もあり、かなりの数量が入荷した。茨城のハウス物は、暖冬で年末年始と出てくる予想だが、秋の日照不足で1株の重量が軽く、入荷量はそれほど伸びないか。愛知の露地物は秋の長雨の影響で播種時期が遅れた。暖冬で生育は進んでいるものの、年末年始の出荷分が1月以降にずれ込む可能性もある。 入荷量は前年並で、価格は前年をわずかに上回る見込み。		ハウス栽培が増加しており、入荷物の品質レベルは全体的に向上している。異物混入や規格外品の出荷防止を含め、品質の維持には十分な注意をお願いしたい。 また、愛知は高齢化により減少傾向にあるが、地場産物の安定供給のため、栽培面積と出荷量の維持を引き続きお願いしたい。 ※令和元年12月は実績が出ていないため、平成30年12月～令和元年11月の数値を令和元年実績として標記しております。		

○ 東京都中央卸売市場（品目：セルリー）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産	愛知産	
元年実績	8, 3 6 6	5 8 9 (7 %)	2 5 2	長野 (3 8 %) 静岡 (2 7 %) 福岡 (1 1 %)
2年見通し	9, 0 0 0	—	2 3 0	—
概要と見通し		卸売市場から産地への要望・提言等		
昨秋からの高気温で生育が前進化しており、1月以降も潤沢な入荷が見込まれる。この先、強い寒気の影響もなく、産地からも目立った病害虫の情報がないことから、今後も2L比率、正品率が高くなると見込まれる。収量は伸びるも2L比率の高まりとともに荷動きも鈍化し、販売での苦戦が予想される。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。		前年度は台風被害の影響を懸念した結果、後手の販売となった。また、日出荷量も読みづらく、難しい年となった。安定した相場と一定の新規購入層を確保するために、日量格差の少ない出荷と、特売・販促活動の実施が望まれる。 ※令和元年12月は実績が出ていないため、平成30年12月～令和元年11月の数値を令和元年実績として標記しております。		

名古屋・東京市場における青果物の1月の見通し

名古屋市中央卸売市場

※グラフは白抜き箇所が見通しとなります。

12月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	前年主要産地 (%)			
				上旬	中旬	下旬	
野菜計	27年	30,626	238	291	226	214	愛知 24%
	28年	30,733	218	245	200	220	北海道 22%
	29年	30,864	235	261	225	218	茨城 9%
	30年	28,157	290	365	271	261	兵庫 5%
	31年	29,711	227	261	218	215	熊本 5%
	5ヵ年平均	30,018	241	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	29,900	238	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、愛知、茨城などが中心となる。葉物類では秋の天候不順で年内の入荷量が減少した品目もあるが、1月は回復する。ばれいしょ、たまねぎは北海道の豊作のほか他産地も順調で、相場は厳しいか。入荷量は前年並で、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					
数量 t		前年数量		本年数量		単価 円/Kg	
前年単価		本年単価					
だいこん	27年	1,653	81	89	75	88	静岡 37%
	28年	1,667	64	62	57	80	千葉 25%
	29年	1,733	80	90	78	82	徳島 13%
	30年	1,442	183	217	205	142	鹿児島 10%
	31年	1,704	64	75	61	65	愛知 8%
	5ヵ年平均	1,640	92	103	92	90	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,500	80	80	80	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>静岡、千葉、徳島、愛知などから入荷する。秋の天候不順の影響で正品率が低く、年内は入荷量を減らした。1月分は高齢化と前年の安値で作付けが減少しているが、生育順調。中下旬には増量してくるか。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
数量 t		前年数量		本年数量		単価 円/Kg	
前年単価		本年単価					
にんじん	27年	2,103	77	103	77	67	愛知 87%
	28年	1,938	85	99	82	85	長崎 5%
	29年	1,882	130	136	129	130	富山 4%
	30年	1,509	182	172	194	172	鹿児島 2%
	31年	1,853	101	109	106	93	熊本 1%
	5ヵ年平均	1,857	111	121	113	106	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,800	110	120	110	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に入荷する。愛知は太物傾向で、順調な入荷を見込む。一方、全国的に出荷量の多い千葉で台風による不作が予想され、品薄の影響から名古屋市場の入荷量も減少する可能性がある。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
数量 t		前年数量		本年数量		単価 円/Kg	
前年単価		本年単価					

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

12月29日現在

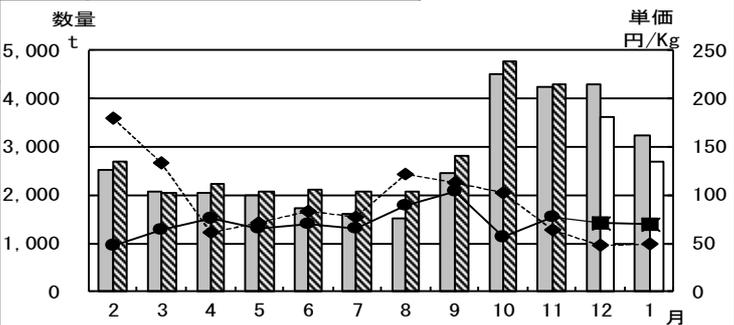
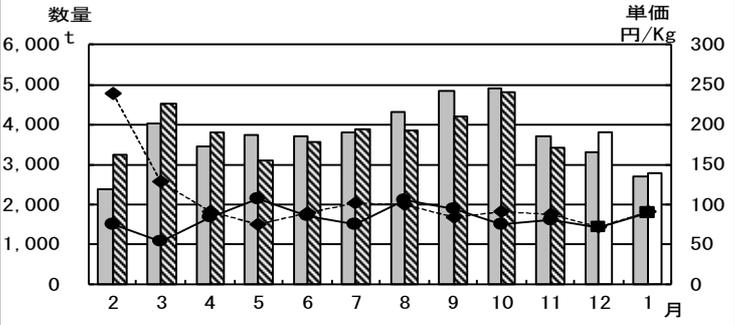
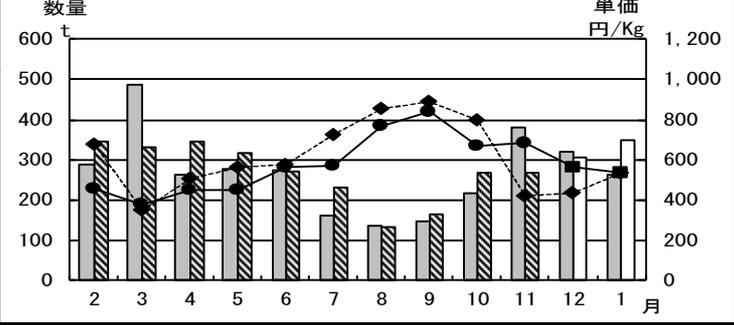
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	27年	121,775	257	300	238	242	千葉 18%
	28年	120,420	238	250	218	245	茨城 16%
	29年	123,907	252	276	242	246	北海道 10%
	30年	108,242	321	385	300	297	愛知 8%
	31年	115,548	242	264	234	235	神奈川 7%
	5ヵ年平均	117,978	261	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	118,000	235	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉、茨城など関東産地からの入荷が中心となる。前半は年末から引き続き潤沢な入荷となり価格を下げるも、後半には一部品目での成り疲れや前半までの価格低下により引き合いが高まり、荷動きも出るか。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>					
		<p>数量 t 前年数量 本年数量 前年単価 本年単価 単価 円/Kg</p>					
だいこん	27年	13,239	85	87	73	91	神奈川 54%
	28年	12,970	58	55	47	69	千葉 36%
	29年	13,153	81	90	73	81	徳島 4%
	30年	9,325	193	222	203	157	鹿児島 2%
	31年	10,975	67	70	64	67	静岡 1%
	5ヵ年平均	11,932	92	105	91	95	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	12,000	75	80	70	75	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>神奈川、千葉からの入荷が中心となる。主力の関東産地は順調な生育も、曇雨天が多く出荷は伸びずにいるが、天候と相場次第で十分な供給が可能とみられる。入荷量は前年をかなり上回り、価格も安かった前年をかなり上回る見込み。</p>					
		<p>数量 t 単価 円/Kg</p>					
にんじん	27年	7,144	80	90	77	75	千葉 85%
	28年	7,427	79	84	76	79	埼玉 7%
	29年	6,787	155	152	155	155	茨城 4%
	30年	6,012	154	140	150	169	鹿児島 1%
	31年	7,049	103	102	114	93	中国 1%
	5ヵ年平均	6,884	112	112	112	112	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	6,800	130	135	130	125	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉を中心に、埼玉などから入荷する。千葉は一部産地で前年の台風と大雨による生育遅れ、裂果などの影響が残る。被害を受けていない産地は増量が見込まれるも、全体量は伸びず高値維持となるか。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
		<p>数量 t 単価 円/Kg</p>					

名古屋市中央卸売市場

12月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	27年	2,496	55	59	50	60	茨城 43%
	28年	2,387	63	61	53	77	兵庫 28%
	29年	2,430	101	116	102	92	愛知 17%
	30年	2,875	170	188	166	163	三重 6%
	31年	3,222	49	57	48	46	宮崎 3%
	5ヵ年平均	2,682	88	97	84	88	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	2,700	70	70	70	70	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>茨城、兵庫、愛知を中心に入荷する。茨城は秋の長雨の影響で前年より少なく、質と量ともに不安定な入荷となるか。兵庫は生育順調。愛知は年内の入荷は少ないが、年明け後は遅れた分が出てくる見込み。入荷量は数量増・安値の前年を大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>						
キヤベツ	27年	2,990	107	113	109	103	愛知 82%
	28年	3,806	56	45	56	65	茨城 9%
	29年	3,224	100	102	99	97	滋賀 4%
	30年	2,728	178	258	179	143	富山 2%
	31年	2,711	92	78	94	100	兵庫 1%
	5ヵ年平均	3,092	103	113	104	99	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	2,800	90	90	90	90	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>愛知を中心に入荷する。愛知は台風被害を受けた前年より出ているが、小玉と割れ傾向がみられた。12月からは改善しているが、外葉の生育や根張りが良くなく、1月の入荷はそこまで多くないか。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>						
ほうれんそう	27年	300	606	727	597	589	愛知 66%
	28年	305	538	497	488	690	茨城 14%
	29年	362	486	416	495	529	群馬 6%
	30年	196	906	1,047	849	887	徳島 5%
	31年	263	534	504	550	544	岐阜 3%
	5ヵ年平均	285	589	602	574	628	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	350	533	600	500	500	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>愛知を中心に入荷する。愛知は秋の長雨で、生育不良や蒔き直ししたほ場があり、年内は少なかった。1月は蒔き直し分が出て、数量はあるか。関東産地も台風の影響で年内は少なく、年明け後に増量する。入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年並となる見込み。</p>						

東京都中央卸売市場

12月29日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほういさ	27年	12,797	40	42	35	43	茨城 84%
	28年	12,573	46	42	38	57	群馬 8%
	29年	13,811	93	101	96	86	兵庫 4%
	30年	13,431	149	146	147	153	埼玉 2%
	31年	14,178	37	41	38	35	北海道 1%
	5ヵ年平均	13,358	73	75	71	75	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	13,500	65	65	65		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城からの入荷が中心となる。昨秋の台風、大雨からの回復が進む。冠水などの被害があったほ場では病害の懸念が残るも、全体では平年並の入荷が見込まれる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
キャベツ	27年	13,026	121	124	117	112	愛知 58%
	28年	15,016	59	49	60	64	千葉 20%
	29年	14,792	106	107	102	109	神奈川 15%
	30年	11,821	198	248	192	171	茨城 6%
	31年	12,805	100	90	100	106	静岡 1%
	5ヵ年平均	13,492	113	119	111	110	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	13,500	85	85	90	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、千葉、神奈川からの入荷が中心となる。愛知は作柄良好もやや小玉傾向か。関東産地は雨が多く、根張りの弱さや病害虫被害が散見される。それでも強い寒気の子供もなく、堅調な入荷が続く見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ほうれんそう	27年	1,610	597	762	555	533	群馬 36%
	28年	1,378	544	497	446	696	茨城 27%
	29年	1,621	458	467	433	479	埼玉 14%
	30年	1,164	815	1,045	718	769	千葉 13%
	31年	1,319	535	589	545	495	栃木 5%
	5ヵ年平均	1,418	579	657	531	584	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,400	600	700	600	500	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、茨城など関東産地からの入荷が中心となる。昨秋の台風による蒔き直し分が収穫期に入る。年末の品薄感から一転して潤沢な入荷が見込まれ、後半にむけ価格は下げ基調となる。 入荷量は前年をかなり上回り、価格も前年をかなり上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

12月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	27年	998	352	448	332	318	静岡 21%
	28年	972	378	436	341	394	大分 20%
	29年	995	424	473	439	385	群馬 11%
	30年	844	498	557	523	460	愛知 10%
	31年	969	362	466	371	306	鳥取 7%
	5ヵ年平均	956	400	474	398	370	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,000	400	450	400	350	
ぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	静岡、大分、群馬、愛知などの各地から入荷する。白ねぎは、大分と静岡がピークを迎え、ともに順調な入荷見込み。愛知は越津ねぎが出揃い、増量してくる。1月は安定した入荷となるか。入荷量はやや上回り、価格は前年をかなり上回る見通し。						
し	27年	1,770	312	385	281	276	兵庫 35%
	28年	1,323	285	293	266	303	静岡 16%
	29年	1,576	228	203	217	267	愛知 15%
	30年	1,136	446	646	393	339	熊本 15%
	31年	1,465	244	251	250	235	長崎 13%
	5ヵ年平均	1,454	296	343	276	281	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,500	250	200	250	300	
ス	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	兵庫、静岡、愛知などから入荷する。愛知は生育遅れで年内の入荷が減少したが、暖冬傾向で順調な産地が多い。上旬は順調な入荷で、その後は天候次第となるか。玉流れは2L中心に、Lや3Lが出てくる。入荷量と価格は、ともに前年をわずかに上回る見込み。						
き	27年	1,208	388	416	364	403	愛知 61%
	28年	1,099	421	356	398	534	宮崎 16%
	29年	1,189	221	166	233	276	高知 13%
	30年	1,198	424	414	426	432	鹿児島 11%
	31年	1,312	410	442	398	395	
	5ヵ年平均	1,201	373	361	364	406	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,200	400	400	400	400	
り	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知を中心に宮崎、高知、鹿児島から入荷する。愛知は前進傾向で12月前半に入荷減となったが、1月には増量する見込み。他産地も平年並の入荷を見込む。中下旬は節分需要があり、荷動きも良くなるか。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。						

東京都中央卸売市場

12月29日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	27年	5,708	300	361	272	275	千葉 35%
	28年	5,550	337	395	301	331	埼玉 18%
	29年	5,559	365	391	28	313	茨城 17%
	30年	4,940	424	498	389	409	群馬 10%
	31年	5,578	318	386	317	274	栃木 6%
	5ヵ年平均	5,467	347	404	259	318	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	5,500	320	360	300	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉県、埼玉県など関東産地からの入荷が中心となる。全体的に生育の遅れが見られるものの、各産地とも順調に回復して増量する見込み。生育遅れの入荷量への影響は最小限になるとみられる。 入荷量、価格はともに前年並の見込み。</p>					
しめじ	27年	7,212	328	413	285	290	静岡 38%
	28年	6,613	274	274	253	293	長崎 13%
	29年	7,889	219	197	208	253	千葉 9%
	30年	5,144	450	681	400	330	兵庫 8%
	31年	6,945	240	247	245	230	香川 7%
	5ヵ年平均	6,761	292	342	270	276	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	6,800	230	230	230	230	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>静岡、長崎、香川などからの入荷が中心となる。静岡は豊作傾向で、西日本産地は気温高もあり前進傾向となる。温暖な気候が続き、低温でブレーキがかからなければ見込みを上回る出回りとなるか。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
きゅうり	27年	4,961	432	457	412	426	宮崎 36%
	28年	4,639	454	373	439	548	千葉 20%
	29年	4,911	393	393	400	389	高知 19%
	30年	4,720	462	432	478	475	茨城 10%
	31年	4,553	458	518	439	425	群馬 6%
	5ヵ年平均	4,757	439	434	433	452	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	4,800	450	430	450	470	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>宮崎、千葉、高知からの入荷が中心となる。年末は11月の夜温高により収量に影響出たが年明けには回復。年明け直後は値を下げるも、後半は行事需要も予想され価格を戻すと見込まれる。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年並となる見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

12月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	27年	419	411	417	409	416	熊本 49%
	28年	289	463	349	468	587	愛知 46%
	29年	377	394	366	388	426	高知 5%
	30年	390	444	452	441	444	
	31年	400	394	375	384	422	
	5カ年平均	375	419	395	415	451	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	390	420	400	420	440	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知を中心に入荷する。両産地ともやや徒長傾向が見られる。今後の天候次第だが、大きなピークのない緩やかな入荷となるか。愛知は12月前半が少なかったが、大きな病害もなくそれなりに増量するか。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
ト マ ト	27年	985	347	330	339	371	熊本 49%
	28年	867	444	372	429	541	愛知 26%
	29年	976	384	406	377	376	三重 14%
	30年	1,186	352	423	347	297	岐阜 10%
	31年	1,104	258	237	258	282	高知 1%
	5カ年平均	1,024	352	353	346	364	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,100	320	300	320	330	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知、三重、岐阜が中心となる。前年は年末年始に入荷が集中して価格が下落したが、本年の上中旬は大きなピークのない順調な入荷を見込む。愛知の東三河は樹勢が良くなく、入荷量は多くないか。入荷量は前年並で、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	27年	364	715	654	710	767	熊本 57%
	28年	369	808	789	752	890	愛知 30%
	29年	390	779	823	753	787	宮崎 8%
	30年	389	756	730	767	787	和歌山 4%
	31年	500	576	509	569	659	長野 1%
	5カ年平均	402	718	690	702	770	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	435	600	600	600	600	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知を中心に入荷する。年末年始に入荷が集中するが、その後は冷え込みで下旬に向けて減少するか。前年は2L、L玉が多かったが、本年はLM玉中心で入荷量は減少するとみられる。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年をやや上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

12月29日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	27年	2,083	461	478	427	465	高知 66%
	28年	1,613	544	429	598	619	福岡 15%
	29年	2,030	441	413	446	463	熊本 9%
	30年	2,130	460	431	475	476	佐賀 3%
	31年	1,974	453	405	441	512	栃木 3%
	5ヵ年平均	1,966	469	432	472	502	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	2,000	450	440	440	470	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>高知、福岡、熊本などからの入荷が中心となる。主力となる高知は11月の日照不足により着花が不安定となっていたが、現状は回復に向かっており、全体的にも月の後半は増量する見込み。 入荷量、価格はともに前年並の見込み。</p>					
ト マ	27年	5,272	384	366	375	407	熊本 47%
	28年	4,768	473	412	459	552	栃木 17%
	29年	5,223	424	414	413	421	愛知 13%
	30年	5,692	397	465	473	478	静岡 5%
	31年	5,767	314	294	308	337	千葉 4%
	5ヵ年平均	5,344	395	389	404	436	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	5,500	340	340	340	340	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、栃木、愛知からの入荷が中心となる。熊本はこれまでの潤沢出荷の反動から後半に一時荷を減らし、愛知も植え替え等により量を減らす見込み。しばらくは安値基調が続くも、後半は上昇に転ずるか。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	27年	1,459	695	632	708	752	熊本 41%
	28年	1,499	782	763	739	844	愛知 19%
	29年	1,571	754	804	716	744	千葉 13%
	30年	1,615	724	706	724	746	宮崎 9%
	31年	1,885	554	481	538	652	静岡 7%
	5ヵ年平均	1,606	696	670	679	743	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	1,700	600	500	600	700	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知、千葉、宮崎、静岡などからの入荷となる。高温などの影響で、12月の入荷量が増加しており、1月は成り疲れからの減少が見込まれる。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

12月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	27年	468	658	684	639	685	鹿児島 61% 宮崎 31% 高知 8%
	28年	417	573	497	572	721	
	29年	493	499	405	520	581	
	30年	408	689	598	687	731	
	31年	349	654	569	667	694	
	5ヵ年平均	427	610	548	612	678	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	380	646	570	670	700	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>鹿児島、宮崎、高知から入荷する。各産地ともに平年並の入荷を見込む。厳寒期のため、下旬に向けて入荷は減少していき、それとともに引き合いも強くなるか。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年並となる見込み。</p>					
ばれいしょ	27年	3,029	102	99	101	105	北海道 52% 長崎 34% 鹿児島 14%
	28年	2,746	122	109	117	133	
	29年	2,388	202	192	198	210	
	30年	2,614	123	102	122	133	
	31年	2,553	120	116	119	121	
	5ヵ年平均	2,666	132	122	129	138	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	2,700	95	90	95	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に長崎、鹿児島から入荷する。北海道の貯蔵物は豊作で数量が多く、平年並の入荷を見込む。長崎も秋に適度な雨が有り順調。鹿児島の出水も作付面積はやや減少しているが、生育順調。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
たまねぎ	27年	4,792	85	89	95	81	北海道 97% 静岡 2% 中国 1%
	28年	5,493	71	70	70	76	
	29年	6,407	80	78	81	80	
	30年	5,146	96	101	95	96	
	31年	4,992	122	138	115	126	
	5ヵ年平均	5,366	90	94	90	91	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	5,000	80	80	80	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道主体で静岡からも一部入荷する。北海道の貯蔵物は豊作のため順調な入荷を見込む。階級はL大中心となる。静岡も順調で平年並の入荷を見込む。入荷量は前年並で、価格は高値となった前年を大幅に下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

12月29日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
ピーマン	27年	1,405	669	703	626	684	宮崎 47%	
	28年	1,348	642	542	557	736	高知 24%	
	29年	1,539	549	474	549	608	鹿児島 14%	
	30年	1,380	728	657	751	766	茨城 14%	
	31年	1,315	714	633	730	754		
	5ヵ年平均	1,397	657	599	640	707	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	1,350	680	610	710	720		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>宮崎、高知、茨城などから入荷する。高知では他の果菜類同様に、成り疲れからの収量減の傾向があるものの、もともと需要が少ない時期でもあり全体での影響は僅かとみられる。</p> <p>入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>							
	ばれいしょ	27年	8,741	103	103	103	104	北海道 54%
28年		7,660	128	112	122	140	長崎 31%	
29年		7,268	198	192	192	207	鹿児島 15%	
30年		7,390	123	117	123	125		
31年		7,626	118	124	118	115		
5ヵ年平均		7,737	133	128	130	137	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2年見通し		7,700	90	100	90	80		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
<p>北海道と九州からの入荷となる。北海道は十分な貯蔵量がある。前半は輸送便が少なく入荷量に制限かかるも後半には数量が戻り、九州各産地の太玉傾向もあって潤沢な入荷が見込まれる。</p> <p>入荷量は前年並となり、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>								
たまねぎ		27年	9,360	100	92	98	111	北海道 88%
	28年	9,552	81	79	80	83	静岡 6%	
	29年	10,342	97	93	96	99	中国 5%	
	30年	9,520	107	101	103	115		
	31年	8,179	144	132	140	153		
	5ヵ年平均	9,391	105	98	102	111	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2年見通し	9,500	80	80	80	80		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>北海道からの入荷が中心となる。北海道は十分な貯蔵量がある。ばれいしょ同様、前半は輸送便の関係から入荷が限られるも後半からは通常通りの入荷となる見通し。</p> <p>入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

12月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	27年	8,192	370	418	345	356	静岡 23%
	28年	7,411	411	442	403	402	青森 20%
	29年	8,115	372	425	338	366	フィリピン 12%
	30年	6,999	440	482	427	400	愛知 12%
	31年	7,988	394	402	367	385	愛媛 7%
	5ヵ年平均	7,741	396	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	6,700	440	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	いちご、みかん、りんごなどが主な品目となる。前年はみかんが増量したが、本年は平年より少ない予想。りんごも主力の青森産が少なく、前年をやや下回る入荷量となるか。いちごはやや遅れ気味。入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。						
みかん	27年	2,493	230	265	229	203	静岡 66%
	28年	2,203	313	312	309	321	愛知 20%
	29年	3,057	239	264	215	259	和歌山 7%
	30年	1,833	401	425	425	360	三重 3%
	31年	2,681	285	282	281	296	徳島 1%
	5ヵ年平均	2,454	285	301	281	282	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	2,000	330	330	330	330	
みかん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	静岡を中心に愛知などからも入荷する。静岡は裏年や天候不順の影響で、前年より大幅に少なく、不作だった前々年並の入荷となる見込み。愛知も平年より少ない入荷が予想される。入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。						
いちご	27年	705	1,358	1,468	1,253	1,367	愛知 47%
	28年	560	1,479	1,421	1,382	1,641	熊本 34%
	29年	566	1,464	1,469	1,424	1,471	鹿児島 6%
	30年	598	1,540	1,704	1,494	1,421	佐賀 5%
	31年	635	1,440	1,493	1,430	1,481	岐阜 2%
	5ヵ年平均	613	1,452	1,511	1,392	1,470	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	600	1,500	1,600	1,500	1,450	
いちご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知、熊本を中心に入荷する。中下旬には2番果が出てきて増量する見込みだが、愛知はやや遅れている。低温が続いた場合は増量時期が後ろにずれ込む可能性も予想される。入荷量はやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。						

東京都中央卸売市場

12月28日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	27年	37,826	405	457	385	342	静岡 22%
	28年	34,644	442	489	421	434	青森 15%
	29年	36,736	427	493	402	415	愛媛 14%
	30年	31,100	507	610	481	476	和歌山 6%
	31年	34,638	453	516	423	446	フィリピン 5%
	5ヵ年平均	34,989	443	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	34,500	440	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	みかん中心にいちご、りんごなどが入荷する。りんごは青森の貯蔵物が中心だが、夏の高温と干ばつの影響で数量が少なく、価格はやや高くなるか。果実全体では荷動きが鈍く、価格は安値基調の見込み。 入荷量は前年並となり、価格は前年をわずかに下回る見込み。						
みかん	27年	16,163	249	257	247	244	静岡 55%
	28年	13,080	314	294	312	328	愛媛 10%
	29年	15,379	266	268	260	270	長崎 10%
	30年	10,940	377	379	382	369	和歌山 9%
	31年	13,524	301	286	292	318	熊本 5%
	5ヵ年平均	13,817	296	291	292	300	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	13,000	300	290	300	310	
みかん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	静岡を中心に長崎、愛媛などから入荷する。天候不順の影響を受けていた食味は回復傾向。主力の静岡は豊作だった前年より数量減を見込む。愛媛は生育遅れで入荷が1月にずれ込み、数量増となる見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。						
いちご	27年	3,824	1,385	1,481	1,279	1,388	栃木 46%
	28年	3,218	1,460	1,405	1,385	1,583	福岡 16%
	29年	3,779	1,458	1,459	1,448	1,466	茨城 11%
	30年	3,780	1,549	1,702	1,517	1,436	佐賀 7%
	31年	3,839	1,473	1,499	1,420	1,490	長崎 7%
	5ヵ年平均	3,688	1,465	1,512	1,410	1,469	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2年見通し	3,750	1,530	1,560	1,530	1,500	
いちご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	栃木を中心に福岡、茨城などから入荷する。栃木は12月の日照不足で生育が遅れ、1月下旬の増量を見込む。静岡は台風で定植の遅れた分が1月に増量、福岡は2番果のピークが中旬以降にくる見込み。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をやや上回る見込み。						

切花・鉢花の1月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 12月28日現在）

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	27年	1,582	59	
		28年	1,649	50	
		29年	1,629	53	
		30年	1,576	53	
		31年	1,666	54	
	5ヶ年平均		1,620	54	
	2年見通し		1,630	54	
概要	愛知を中心に入荷する。大きな出荷の山もなく、ダラダラとした出荷となる。上位等級中心の引合いで、一般需要は多くはない見込み。				
小 ぎ	実績	27年	800	28	
		28年	972	25	
		29年	927	21	
		30年	614	35	
		31年	684	40	
	5ヶ年平均		799	29	
	2年見通し		700	35	
概要	沖縄を中心に入荷する。上旬は出荷量が少なく、中旬以降入荷は安定してくる見込み。一般需要の有無で相場は変動するとみられる。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	27年	820	46	
		28年	840	36	
		29年	802	40	
		30年	746	45	
		31年	864	46	
	5ヶ年平均		814	43	
	2年見通し		830	46	
概要	愛知を中心に入荷する。比較的前進気味だった年内出荷の影響が出る見込みで、品薄が予想される。例年に比べて暖かい気温が気になりだが、相場は堅調な見込み。				
か す み	実績	27年	198	61	
		28年	138	63	
		29年	171	65	
		30年	174	70	
		31年	167	57	
	5ヶ年平均		170	63	
	2年見通し		160	65	
概要	高知、和歌山、熊本からの入荷となる。前進傾向で、年末には1、2月の出荷予定分が出ている。気温が低めで推移すれば、少なめの入荷になると思われる。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆ り	実績	27年	249	194	
		28年	250	174	
		29年	233	217	
		30年	209	326	
		31年	235	180	
	5ヶ年平均		235	215	
	2年見通し		230	200	
概要	<p>オリエンタルは高知、宮崎、愛知から、鉄砲は埼玉、鹿児島から、LAは埼玉、高知から入荷する。前進傾向で前年12月に出切った感があり、出荷量は多くならないか。</p>				
洋 ら ん	実績	27年	459	82	
		28年	457	60	
		29年	461	71	
		30年	394	84	
		31年	449	72	
	5ヶ年平均		444	74	
	2年見通し		400	75	
概要	<p>高知、徳島、愛知、静岡の国内産や輸入品が入荷する。輸入品のオンシジウムは品薄。デンファレ等は全体的には入荷減となるが、遅れていた物が一気に入荷する場合もある。</p>				
ば ら	実績	27年	548	83	
		28年	521	59	
		29年	567	74	
		30年	620	65	
		31年	524	76	
	5ヶ年平均		556	71	
	2年見通し		550	70	
概要	<p>愛知、岐阜、三重、和歌山中心の入荷となる。初旬の入荷量は少なめ。成人式需要で、前半は堅調に推移すると思われる。</p>				
枝 も の	実績	27年	1,257	47	
		28年	1,193	43	
		29年	1,252	46	
		30年	1,226	48	
		31年	1,187	48	
	5ヶ年平均		1,223	46	
	2年見通し		1,200	46	
概要	<p>草生花木中心に入荷する。成人式の需要は年々低下しており、下旬に向けて低調に推移する。特に高価な花木の販売は苦戦する。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
エ リ カ	実 績	27年	20,863	191	
		28年	13,786	222	
		29年	13,351	220	
		30年	12,475	191	
		31年	12,921	172	
	5ヶ年平均		14,679	199	
	2年見通し		12,500	180	
概要	<p>年明けより山梨と新潟からスズランエリカの出荷が始まるが、前年同様品薄になると予想される。年明けの初売で引き合いが強いほか、月末になるにつれて徐々に相場は厳しくなると思われる。</p> <p>前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位山梨(29.2%)、2位長野(27.7%)、3位静岡(22.3%)となっている。</p>				
プ リ ム ラ	実 績	27年	492,187	92	
		28年	404,331	107	
		29年	486,315	93	
		30年	434,800	80	
		31年	390,400	95	
	5ヶ年平均		441,607	93	
	2年見通し		400,000	93	
概要	<p>入荷量は前年よりわずかに増加するか。年内は一部で開花遅れが発生しており、1月に先送りになった分が増える傾向で、生産量は増えないが、取扱数は増加する形となるか。価格面は厳しい見込み。</p> <p>前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(46.4%)、2位埼玉(12.0%)、3位三重(9.0%)となっている。</p>				
チ ュー リ ッ プ	実 績	27年	56,809	197	
		28年	55,348	233	
		29年	40,897	213	
		30年	31,700	224	
		31年	36,588	207	
	5ヶ年平均		44,268	214	
	2年見通し		36,500	207	
概要	<p>入荷量は前年並か。主要な生産者が作付けを減らしているのが要因。関東は4~5号、愛知は4号サイズが中心で、その他のサイズは年々減少している。価格面は前年と大きく変わらない見込みだが、年々注文が減少しているため、競売価格次第で変動する。</p> <p>前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(33.0%)、2位埼玉(32.1%)、3位茨城(15.0%)となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
サイネリア	実績	27年	55,383	291	
		28年	49,642	254	
		29年	53,709	242	
		30年	42,745	249	
		31年	44,420	279	
	5ヶ年平均	49,180	263		
	2年見通し	44,000	273		
概要	<p>入荷量は前年並か。夏の暑さの影響で各産地で苗が傷み、年末から1月にかけての出荷分が減少する見込み。例年どおり6号は埼玉、5号は埼玉・愛知・三重・東北産地、4号は愛知・三重を中心に入荷する。価格は年々厳しくなっており、さらに成人式需要も減少傾向にあるため、前年を下回る見込み。 前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉(29.2%)、2位愛知(17.0%)、3位栃木(12.6%)となっている。</p>				
マーガレット	実績	27年	47,804	197	
		28年	36,992	192	
		29年	41,464	191	
		30年	35,941	179	
		31年	33,426	199	
	5ヶ年平均	39,125	192		
	2年見通し	33,000	197		
概要	<p>入荷量は前年並か。販売面は天候の影響に大きく左右され、不安定な価格となる予想。チェーンストアの注文量も減少傾向にあり、低値安定で推移する見込み。 前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位岐阜(28.9%)、2位静岡(28.6%)、3位愛知(18.8%)となっている。</p>				
デンドロビウム	実績	27年	19,497	787	
		28年	17,750	728	
		29年	19,651	679	
		30年	20,267	584	
		31年	19,042	651	
	5ヶ年平均	19,241	684		
	2年見通し	19,000	647		
概要	<p>入荷量は前年並か。近年の相場が厳しいため、生産量が減少しているのが要因。1月は山上げ物と自然開花物の合間のため、さらに出荷量は少ない見込み。引き合いは4～5号が強い。開花状況は固めで蕾に色が付いた程度で出荷をお願いしたい。 前年1月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(44.9%)、2位岡山(15.0%)、3位三重(9.6%)となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.559
令和2年1月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434